

「(仮称)米原リゾートホテル開発計画に係る環境調査報告書」の検証

以下に「(仮称)米原リゾートホテル開発計画に係る環境調査報告書」の内「2.3 自然環境 2.3.1 海生生物(サンゴ礁)」という項目(資料1)の問題点を列挙します。資料1と照らしてご確認下さい。

で囲んだ所は資料1の2-9ページからの抜き書きであり、下線は比較の便宜のために私達が書き込んだものです。

2.3 自然環境

2.3.1 海生生物(サンゴ礁)

2003年における石垣島周辺のサンゴ礁分布図を図 2.3.1.1 に示す。サンゴ類被度が高い地域は、御神崎と川平から吉原、米原に至る北西海域、及び平久保周辺である。米原のサンゴ類被度は 10～30%であり、多種混成型となっている。

図 2.3.1.1 は資料1の2-10ページにあります。その中で「事業計画地」として矢印が指し示しているところが不明確ですが、「米原のサンゴ類被度は 10～30%であり多種混成型となっている。」と書いてあるところを見ると、一次資料(平成15年度 環境省 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター年報 第4号6ページ)にはない「米原」という文字を書き込んだ左上の緑色の から読み取ったようです。しかし、この緑色の のところは「St.49 米原キャンプ場」というポイントで、事業計画の排水予定地から西に1キロくらい離れた地点です。ひとつ右の赤色の のところは「St.48 富野集落前」というポイントで、当リゾート計画の排水予定地に、より近く、この辺りの潮は西から東へ流れることを考慮に入れても、影響を受ける可能性が高いのはこちらです。サンゴ類被度 70～90%であり、卓上ミドリイシ型です。(当リゾートの位置は資料1の2-11 ページの図 2.3.1.2 に記されています。)

1989～1992 年における事業計画地周辺のサンゴ礁分布図を図 2.3.1.2 に示す。サンゴ群集の被度に関しては、米原キャンプ場周辺の礁池が 5%未満であり、米原の海岸一帯の礁縁が 5～50%である。

図 2.3.1.2 は資料1の2-11ページにある1989～1992年の古い調査です。礁池が5%未満とありますが、米原キャンプ場周辺の礁池はごく浅く、干潮の時には海面より高くなる場所があるのでサンゴは生えないか少ないかでしょう。

米原の海岸一帯の礁縁が5～50%とあります。当時はそうだったのかもしれませんが、現時点での最新版、平成15年度の「石西礁湖サンゴ群分布図」(資料4)で見れば礁縁部は 50～75%、当リゾート計画の排水予定地の近くでは 75～100%となります。

1985年と2002年におこなわれた石垣島全域でのサンゴ礁調査の報告書を基に、米原地区のサンゴ礁についてとりまとめ、表 2.3.1 に示した。

表 2.3.1 米原のサンゴ礁についての文献調査結果

文献	調査年	調査位置	調査結果
	1985	米原ビーチ	礁縁部の造礁サンゴの被度は 50%、生存度は 20% であった。以前はキクメイシ類の間に盤状ミドリイシ類が密に生育し、典型的な外洋性礁原の生態系を構成していたが、1980 年と 1982 年にサンゴ礁の死滅減少が起こり、群体の一部が死滅したキクメイシ科のサンゴだけが残存している。すでに数年を経過し、現在は回復期にある。礁縁部から礁斜面にかけて多くのサンゴが生息する。サンゴ以外の海生生物においても、多様性が高く、特に貝類、ナマコやヒトデ・ウニ等の棘皮類が多く見られる。

と、ありますが、参考文献である「石垣島周辺海域サンゴ礁学術調査報告書」(資料2)の330ページ18行目以下には「造礁サンゴの被覆度は、リーフ内は 50%、礁縁部から礁斜面は 90%で、平均 70%。生存度はそれぞれ 20%と 60%、平均 40%と判定した。」とあります。ここが明らかに数字の書き換えが為されているところです。

	2002	米原キャンプ場	サンゴ類被度は 20%であり、多種が混成している。塊状ハマサンゴ類とシコロサンゴ類を主体とした多種混成。ミドリイシ類は直径 10 ~ 20 cm 程度の群体が多少見られる。サンゴ類被度に関しては、2001 年度までは回復傾向を示していたが、2002 年の台風により大型のサンゴ群体が転倒するなどの攪乱が起き、わずかに低下している。
--	------	---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

と、ありますが、参考文献である「石垣島周辺海域におけるサンゴ礁モニタリング調査」(資料3)の4ページの表によれば、前記のように当リゾート計画の排水予定地に、より近いのは「St.49 米原キャンプ場」ではなく「St.48 富野集落前」であり、この辺りの潮は西から東へ流れることを考慮に入れても、影響を受ける可能性が高いのはこちらです。こちらのサンゴ類被度は 65%です。(資料3、23ページ)

太平洋資源開発研究科, 1985 : 石垣島周辺海域サンゴ礁学術調査報告書. 沖縄県石垣市財団法人 自然環境研究センター, 2002 : 石垣島周辺海域におけるサンゴ礁モニタリング調査. 環境省自然環境局